

開会挨拶

姉崎 猛（内閣府大臣官房審議官）

私は元々厚生労働省の人間です。先週24日付で内閣府に来ました。実はここに参加してご挨拶をさせていただくのが、審議官になっていちばん最初の仕事です。こういう場でご挨拶をさせていただくことを光栄に思っています。今まで全然違う仕事をしていて、「そうだ、高齢化社会なのだ。活力ある社会にしていかねばいけないな」と改めて思ったところです。

本日は皆様方、お暑い中ご多忙のところ、このフォーラムにご参加をいただきまして大変にありがとうございます。このフォーラムは、これまで高齢社会NGO連携協議会との共催で名前は「高齢社会研究セミナー」として開催をしてきたと聞いています。本年度から「高齢社会フォーラム」と名称を改めるとともに、東京と地方で年2回開催をするということです。内容も充実し、今年から新しく変わったその第1回目のフォーラムであると承知をしています。

ご承知のように高齢社会がすでに到来しており、高齢者の皆様ご自身が、日々の生活の中で生きがいや満足感が得られるような社会を実現していくことが大事だと思っています。内閣府では毎年、年齢にとらわれずに自分の責任と能力で自由に生き生きと地域で生活を送る高齢者、あるいは社会参加活動を行なっている高齢者の団体の皆様について、エイジレス章、社会参加章として内閣府特命担当大臣の表章を行ない、その活動を広く紹介しています。

本日のフォーラムは、「シニアの社会参加が時代をつくる」というテーマで、それぞれの地域でシニアの皆様が社会参加活動を行なっていく上での問題点や課題の解決方法について、講義や討議を通じて、中高年の社会参加と生きがいづくりの取り組みの促進を図ることを目的にしています。

本日は、共催者である高齢社会NGO連携協議会の堀田力代表からご挨拶をいただき、その後、同じ代表である樋口恵子先生から「“長寿社会”初代を生きる役割と覚悟」というテーマでご講演をいただくということで、午後の分科会に役立つご講演だと聞いています。また分科会についても、5つのテーマでご議論いただくということで、大変実りあるご議論になることを期待しているところです。

私の前の職場もそうだったのですが、今、若年者対策をどうするかが議論になっていま



す。確かに若者は若者でいろいろ大変なのですが、人口の数からいくと若者の数はだんだん減っていき、中高年の数のほうが増えていくわけです。市場原理的にいうと、少なくなると希少な資源になっていくので、それなりに施策としてやらなければいけないこともあるのです。少なくなっていくと貴重になってくるので、みんな大切にする。そうすると、より大きなウエイトのところをどうするかということをきちんとしないと、社会全体の活力はなかなか生まれないわけです。

私も若年者対策をやっていました。若年者対策も大事なのですが、これからどんどん増えてくる中高年、高齢者の皆様が楽しく明るく生きられる社会にしないと社会全体が暗くなってしまうので、そちらをきちんとやっていかなければいけないと常々思っていました。今回、異動でこの仕事をさせていただくことになり、大変喜んでいるところです。

いずれにしましても、本日のフォーラムが有意義なことになるように祈念いたしました、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。今後末永くお付き合いをさせていただければと思っています。よろしくお願ひいたします。

